

# 足立区議会公明党

一般会計	賛成	修正案	反対
国民健康保険特別会計	賛成		—
介護保険特別会計	賛成		反対
老人保健医療特別会計	賛成		—

平成19年度予算は、鈴木区長が取り組まれた最後の予算編成であり、「子どもの未来とまちの活力を育む予算」とされ、協働で築く足立区の実現のため、基本計画を推進させる予算である。区歳入の4割以上を都区財政調整制度に依存する当区にとって、総人件費の抑制、事務事業の改善・改革に努め、優先順位に基づいた行政資源のより効果的な配分の徹底は重要である。



うすい 浩一 委員

鈴木区長は、2期8年間リーダーシップを発揮し、区財政の健全化を達成すると共に、今後、支出が見込まれる竹ノ塚駅付近鉄道立体化の促進、学校改築及び公共施設の更新、さらに、借入金返済等、将来への備えとして基金残高の回復にも取り組んできたことは、未来の区政に

責任を持つ区政運営においては当然のことと考える。本予算において、子ども医療費助成の拡大等による子育て家庭の経済的負担の軽減、小児初期救急診療施設整備の促進、高齢者等への身の回り応援隊、日暮里・舎人ライナーの開業の促進、竹ノ塚駅付近鉄道立体化の早期実現、新田公園の新設、耐震促進強化期間と定めての助成制度の拡大、災害時要援護者への支援体制、ペットボトル自動回収機等の拡大、町会自治会の活動助成・会館整備助成金の拡大、ステップアップ講師の増

員、小学校普通教室へのエアコン設置、創業支援施策のさらなる充実、フリーター等の若年者就労支援、土日・夜間も対応するコールセンターの開業等は、我が党が要望してきた重要施策である。今後も構造改革の推進、区政の透明化、財政体質の強化等に取り組む、人口減少社会・少子高齢社会を乗り越える基盤づくりを進めていく必要がある。そのためには、無駄を廃して区民との協働で積極的に財政改革を推し進めて頂きたい。最後に、我が党の委員から指摘された事項や提案、要望は、新年度予算の執行や区政運営に反映されるよう要望する。

# 足立区議会自由民主党

一般会計	賛成	修正案	反対
国民健康保険特別会計	賛成		—
介護保険特別会計	賛成		反対
老人保健医療特別会計	賛成		—

一般会計の総額が、この4年間で最大となったが、三位一体改革や税制改正等による一般財源の増が、主要な要因である。特別区税などの自主財源比率も低く、都区財調に4割を依存する構図は変わっていない。一方、平成17年度普通会計決算では、民生費が1千億円を突破し歳出全体の47%を占め、財政運営は厳しさが続く。



うへむら 信男 委員

「子どもの未来とまちの活力を育む予算」である平成19年度予算は、2期8年務めた鈴木区長が次の区政にバトンタッチする、責任ある予算でもある。「竹ノ塚駅付近鉄道高架化」は、区の未来に道筋をつけた鈴木区長の功績であり、区民との協働で築く足立区の実現であった。東京藝術大学千住キャンパス

の開学により、文化芸術活動推進や人間力、文化力を育み、未来の足立区を担う子どもたちに向けた計画に期待する。同様に、少子化時代に鑑み、認証保育所利用者への月額1万円の助成、私立幼稚園の入園料補助増額等は、「子育てにやさしい足立区」の充実に寄与する施策として、大いに望まれる。日暮里・舎人ライナー関連事業等は、格差社会の負のイメージを払拭する、注目の高い施策である。コミュニティバス「はるかぜ」についても、一層の充実を望む強く要望する。

議論が多く出た。国民健康保険特別会計は、前期高齢者数の増により保険給付費が91億円も増え、12.0%の増である。介護保険特別会計は、要介護認定者の増加が見込まれ、34億円、11.3%の増である。中小零細企業の多い当区では、景気の回復を実感できるレベルには至っていない。安心して暮らせる安全都市に向けて、平成19年度予算が寄与することが期待されるが、経常的事業費の抑制に努め、効率的に執行されることが大切である。最後に、我が党の委員から指摘された事項や要望は、本予算の執行や区政運営に確実に反映されるよう、強く要望する。

## 特別の 予算委員会 討論(要旨)

本特別委員会では、財政再建した鈴木区長とほめ称える野党の発言があったが、財政を危機的状況にしたのは、60周年記念等で大型施設をつくった92年から4年間で、91億円もの起債(借金)をしたことにある。吉田区長は大型開発を抑え新たな起債は100億円程度にし、返済(公債費)を上回らないという財政再建のルールを引いた。一般会計は「子どもの未来とまちの活力を育む予算」としてが、区民を支えず財政力はあるのに自治体の責務を捨てている。第一、子育てでは、子育て支援バスポート事業を、大型店進出野放しで苦しむ商店に5%割引を押しつけ、認証保育所



わたなべ 修次 委員

現在の我が国では、一部の大企業が過去最高利益を上げ、景気回復を宣言しているが、実態は限定的・短期的で、ほとんどの国民は、景気回復を実感していない。国と地方の借金残高も破綻しそうな数字である。一方、「2007年度問題」をはじめ、人口減少や超高齢化社会への対応、施設更新の本格化等、第二、第三の夕張市が出てもおかしくない状況にある。

このような中で編成された平成19年度予算だが、鈴木区長が財政再建に全力で取り組んだ2期8年の集大成とも言えるもので、全体としては評価する。念願のつくばエクスプレス、日暮里・舎人ライナー、北千住

(室)の利用者支援事業は、認可保育園の保育料値上げで賄うという冷たさである。子ども医療費助成は、入院に限定し、通院は23区最低レベルである。第二、まちの活力を育む問題は、地域活力の担い手である業者支援が少ない。配達サービスは、自らは国政野党時代に、また、自らは国政野党時代に、予算に反対しながら実績宣伝したことを棚に上げ「予算に反対しているのに実績を語るな」という発言は、天に唾するものだ。第6号議案は、国保料均等割の1千800円値上げで所得の低い世帯の負担が重い。国庫補助を49.8%に戻すのが急務である。第7号議案は、重い負担である介護保険料を、修正案どおり値上げ前に戻すことを求める。



すずき あきら 委員

再開発、大学誘致等一区切りできた。この財産を区民サービス向上のために運営するものと確信する。鉄道立体化の取り組み、住宅の耐震化促進、子ども医療費助成制度の拡大、あだちエコネット事業等評価する。しかし、区民にとってはそれで満足できるものではない。30年以上にわたる都立中川公園への区の消極的姿勢、約10年の各排水場跡地利用計画未実施等も見受けられる。新線や再開発等が目立つが、今後は、放置している問題を解決してほしい。さらに、区のイメージアップ

についてである。例えば、全国各地で裏金報道があった後、「当区では一切ございません」と安全宣言をする等区民の不安感を払拭し、徹底した情報公開でさらに信頼を築くことが、「住んで誇らしく思える足立」になる。一方、離婚後30日以内に生まれた子どもに人道的・福祉的配慮で、住民票を交付したことは大英断で、区民の一人として誇らしく思った。本会議での我が会派の「休日開庁の拡大」「違法建築物適正指導の強化」「六町エコブチエラスの存続」や、本特別委員会での「放課後子ども教室の早期全校実施」「亀有駅・北綾瀬駅の利便性向上」「廃プラサーマリサイクルに伴う、周辺環境調査の徹底」等を強く要望する。

# 足立区議会民主党

一般会計	賛成	修正案	反対
国民健康保険特別会計	賛成		—
介護保険特別会計	賛成		反対
老人保健医療特別会計	賛成		—

# 日本共産党足立区議団

一般会計	反対	修正案	賛成
国民健康保険特別会計	反対		—
介護保険特別会計	反対		賛成
老人保健医療特別会計	賛成		—